日本工業大学

建築学部 建築学科
建築コース

准教授 野口（のぐち） 憲治（けんじ）

日本建築史
近世町家

当研究室では、主に近世に造られた歴史的建造物がどのように発展してきたのか、歴史学、美術史、技術史、民俗学など様々な視点から調査・研究に取り組んでいます。

略歴

1975年生まれ。日本工業大学大学院工学研究科博士前期課程建築学専攻修了、博士（工学）。2001年同大学建築学科助手、2021年より現職。埼玉県近代和風建築総合調査委員会調査委員（2015～2017年）、杉戸町文化財保護審議会委員、日本建築学会関東支部 建築歴史・意匠専門研究委員会委員

所属学会

日本建築学会
建築史学会
洋学史学会
日本歴史学会

研究紹介　西欧人がみた近世町家の特質に関する研究

□ライデン国立民族学博物館所蔵の町家模型について

19世紀はじめ、長崎出島のオランダ商館に勤務したシーボルト（Philipp Franzvon Siebold 1796-1866、商館付き医師、ドイツ人）は、日本人の職人に日本の町家の模型を製作させました。模型は、長崎の町家がモデルとなっています。現在、模型は、オランダのライデン国立民族学博物館に所蔵されています。これらの模型を調査し、長崎の近世町家の特質を明らかにすることを目的としています。

□町家形式の風土決定論に対する批判的研究

気候・風土は民家形式を決定するひとつの要因であっても、唯一の決定要因ではないと考えています。本研究で扱う「町家」も同様です。「町家」を説明する用語はきわめて豊富で、多様な町家形式が歴史的な町並みの重要な構成要素となっています。これらの形式は、近世に骨格が造られ、その蓄積が近代、現代へと受け継がれています。この近世に造られた多様な町家形式は、地域性を示す重要な要素で、歴史的町並みの保存・活用にはかかせません。

歴史的建造物の調査事例

1）東京都あきる野市の民家
2）山梨県道志村大室八幡神社
3）埼玉県杉戸町旧細谷家住宅
4）東京都板橋区田中家※
5）赤外線カメラによる中山神社旧本殿（さいたま市見沼区）の現物確認調査※
※波多野純建築設計室との共同調査

主な発表論文

1）野口憲治,シーボルトがみた近世長崎の町家　ライデン国立民族学博物館所蔵町家模型からみた日本の近世町家（その２）, 日本建築学会計画系論文集, 第89巻（第820号), pp.1142-1151, 2024年6月
2）野口憲治,波多野純, ライデン国立民族学博物館所蔵町家模型の特質　ーライデン国立民族学博物館所蔵町家模型からみた日本の近世町家１ー, 日本建築学会計画系論文集, 第82巻 (第733号), pp.757-766, 2017年3月